

日本メンテナンス工業協会報

IAMSEC

Japan Association of Maintenance and Service Contractors

第111号

Vol. 34, No. 2 2024.3

Maintenances for the Future

目 次

【巻頭言】

エネルギー転換期におけるメンテナンスの重要性 毛利 照彦 …… 1

【JAMSEC News】

2024年 賀詞交歓会開催 …… 2

会員各社の動静 …… 7

「メンテナンス・レジリエンス TOKYO2023」・「INCHEM TOKYO 2023」 出展報告 …… 8

【特別記事】

「メンテナンス・レジリエンス TOKYO2023」 プラントメンテナンスショー 出展企業紹介

・ワコオ工業株式会社 …… 9

・関電プラント株式会社 …… 12

・株式会社明電エンジニアリング …… 19

・山九株式会社 …… 24

・横河電機株式会社 …… 30

・レイズネクスト株式会社 …… 32

・株式会社高田工業所 …… 38

・株式会社西島製作所 …… 44

・株式会社バルカー …… 48

・JFE プラントエンジ株式会社 …… 54

【特集・人材育成】

JAMSEC フランジ締結技能講習制度の運用状況（続報）

フランジ締結認定講師連絡会リーダー 近藤 康治 …… 57

【Coffee Break】

トナカイのかぶりもの 横河ソリューションサービス株式会社 荒井 善之 …… 60

【特集・プラント業界で活躍するリケジョ】

NS-TEXENGの未来を照らす！電気設備設計士「リケジョ」

日鉄テックスエンジ株式会社 矢野 明子 …… 62

【随筆】

還暦 旭化成エンジニアリング株式会社 福永 辰也 …… 64

【ものづくりメンテナンス余話】

日本メンテナンス工業会とのかかわり 横河ソリューションサービス株式会社 小林 聡 …… 66

【トピックス】

京都機械工具株式会社 本社工場・ものづくり技術館見学研修会

教育研修委員会 …… 68

JAMSEC ホームページ リニューアルについて

広報活動委員会・事務局 …… 70

【調査統計】

会員企業概要 【1年調査（2022年度データ）】、【長時間労働について】

調査統計委員会 …… 72

【事務局より】

「会報」掲載原稿の公募について ほか …… 82

日本メンテナンス工業会 会員名簿 …… 83

日本メンテナンス工業会 頒布資料申込書 …… 85

■ 巻頭言 ■



エネルギー転換期におけるメンテナンスの重要性

毛利 照彦

レイズネクスト株式会社
代表取締役社長

この度の「令和6年能登半島地震」において亡くなられた方々へ哀悼の意を表すとともに、被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地域が一日も早く復旧し、被災された方々が通常の生活を取り戻されるようお祈り申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、コロナ禍で傷んだ国内経済も行動制限の解除を受け、個人消費の増加による内需拡大やインバウンド需要の増加により、光明が見えてきております。当会においても、これまで自粛していた対面での会議も徐々に復活させ、賀詞交歓会も例年通り開催するなど、会員各社様との情報交換も徐々にコロナ禍前に戻ってきております。

一方で、国外情勢に目を転じますと、未だ終わりが見えないロシアウクライナ戦争と、中東ではイスラエルガザ戦争の勃発により、多くの市民が犠牲となる大変痛ましい混沌とした状況が続いております。長引く戦争の影響で、日本でも天然ガスの輸入価格が約2倍に上昇し、この結果、各種エネルギー価格が高騰し物価上昇につながるなど、エネルギーに対する社会の関心が益々高まっております。

このような背景の中、日本では脱炭素成長型経済構造への円滑な移行のため「GX推進法」が策定されました。脱炭素社会化と産業競争力強化・経済成長を同時に実現するため、今後10年で150兆円を超える官民のGX投資が想定されています。

脱炭素を目指す代替エネルギーや再生エネルギーへの転換に向けた設備投資は、実証化や社会実装段階に移行してきており、エネルギー業界では、化石エネルギー資源から太陽光、風力、地熱といった非化石エネルギー資源への転換が求められています。

石油業界では、石油製品の需要減少により、原油処理機能の停止や製油所閉鎖が進む中、その跡地へ

は太陽光発電所の建設やSAF、合成燃料といった低炭素燃料製造装置の建設も検討されています。

また発電所では、燃料の脱炭素化にむけ、アンモニア混焼、水素発電の導入などが進められています。製鉄業界では、従来のコークスから水素へ転換する技術開発が進められています。これらに供給する大量のグリーン水素・アンモニアを製造する装置やインフラ設備の建設需要も高まってきております。

さらに、一般化学業界、非鉄金属業界では、脱炭素社会の実現に向けたキーデバイスである半導体製造に関わる高機能化学製品や電子材料の需要が旺盛となっております。

このように産業界が非化石エネルギー化に大きく舵を切る中、会員各社様におかれましても、これら社会需要に応えるビジネスチャンスになるものと思われれます。

一方で、従来の産業を支えてきた既存プラントの安定稼働維持は未だ不可欠であり、高経年化した装置のメンテナンスの重要性は益々増加しています。その意味でも、メンテナンス技術の継承、人手不足への対応、若手の早期育成など、業界としての対応が求められ、当会としてもフランジ締結技術に加え、各種の技術レベルの向上が重要となります。

また、今年4月には時間外労働上限規制が、建設業にも適用されます。会員各社様におかれましては、ICT、AIを活用した業務の効率化、機械化・自動化といった効率化など様々な対応を頂いていると思いますが、施工者側の努力だけでは対応は難しく、工期延長や休日設定など顧客の協力なくしては対応できません。

メンテナンス業界として、現場毎で情報交換を行いながら、協力して顧客と共にこの問題に対応していきましょう。